

第1 分科会

医療・福祉

テーマ：暮らしやすい地域とは

この分科会では…

子育てから高齢者問題まで
を繋がりがあり切り離せない問題と
してとらえ、医療・福祉を関連の深い一つ
の分野として、安心・安全で暮らしやす
い地域社会を築くため様々な立場、
視点で論議する。



山口典子・堺市議会議員

コーディネーター

ミス・コンテスト反対運動の実施、児童絵本・教科書のジェンダー表現の改善を指摘、地下鉄での女性暴行事件を契機に「女性専用車両」の設置を要求、実現など、女性の人権問題、また犯罪被害者保護基本法の成立に貢献などあらゆる分野での運動を国内外で展開している。現在、日本大学大学院 総合社会情報研究科 博士前期課程に在学中。三人の子育て、父の介護中。

あらたな男女共同参画型の医療・社会福祉制度への転換を

国際的なジェンダー主流化アプローチによる政策や学問の再検討が進む中、日本は、とくに社会福祉や医療の領域は政治と合わせて大幅に出遅れていた。しかし1990年代になり、「日本の女性が社会的に抱えている困難」を現行の社会福祉制度がそれを十分に援助できていないことが明らかになった。

高齢社会に突入し、多くの高齢者のケアについて、その対象者と担い手の多くを女性が占める「女性化する福祉社会」が顕在化した。またDVや子ども虐待という課題が社会福祉の新課題と認識され、母子世帯の増加により、貧困の女性化という困難と、構造的な性差別社会におけるシングルマザーの存在が、就労とケアをめぐる女性の社会的権利を検証する際の「リトマス試験紙」であると指摘されるまでになっている。さらに少子化社会の進行は、「産む性」である女性の抱える困難を社会的な課題に位置付けた。医療における生殖補助医療や、性同一性障害治療の問題、母子保健、医療分野の女性の担い手のさまざまな課題などを含め、費用化されない再生産労働が女性に偏る社会から、あらたな男女共同参画型の医療・福祉政策への転換を図る必要がある。